

標準化技術とすり合わせ技術への挑戦

健全な自動車社会の発展に貢献し、当社事業を大きく発展させるために

Challenge to Standardizing Technology and Optimizing Technology

- To contribute to sound development of the automobile society and to expand our business -



取締役副社長

棚倉 由行

Yoshiyuki Tanakura

日本の自動車メーカーは、環境問題や石油資源問題を背景に、特にハイブリッド車や小型車市場の拡大の中で業績を伸ばしてはいるが、昨今の北米、日本、BRICsの自動車の販売/需要動向は大きな市場変化点にきていることを示している。また、技術の視点でも、自動車業界はグローバルに、排出ガスや交通事故をゼロ化する取り組みが強く求められている。一方、自動車には快適性や楽しさも求められており、新車登録台数の減少などへの対策から、この視点も重要視されている。これらの要件を解決していくためには更なるエレクトロニクス化が必然となっており、当社はまさにその自動車用電子機器を製造販売している。自動車の構成が、コンポーネント化&システム化する動向の中で、当社そして富士通グループは強みを発揮できるポジションにあるといえる。

一方、自動車のエレクトロニクス化の進展を背景に、自動車には100個近いECU (Electronic Control Unit) が搭載され、それぞれの機能はますます高機能化してきており、関連するハード&ソフトを高い信頼性で、効率よく開発する技術が求められている。BRICs市場の大きな成長を含めた自動車市場のグローバル化を背景とする多様化に適応するためにも、この開発の効率化が重視されている。

自動車の高機能化、コンポーネント化とシステム化、高い信頼性と開発効率化、グローバル化と多様化...という壮大な課題の解決にはグローバルな『標準化技術』が不可欠である。当社は、拡大するグローバル市場における標準化技術の開発を担い、一步先んじた製品開発によって、大きく成長することが可能である。しかし、標準化技術は技術のコモディティ化(汎用化)を進展させ、成長と衰退という両刃の剣の要素を併せ持っている。携帯電話、パソコン、コンピュータ、情報家電機器などは、高度なデジタル化と共にコモディティ化が大きく進展し、市場成長と価格の大幅下落が短期間で起きる市場に変質しており、勝者が明確になり、淘汰が始まっている。

我々の取り組む自動車用電子機器も同じ道程を歩まないという保証はない。

日本の自動車業界は強い。何故か？それは高品質であると共に、『すり合わせ技術』に長けているからといわれている。すり合わせ技術とは、一定の制約の中で高い機能を実現する...例えば高い精度で軽く、薄く、小さく、堅牢な製品を作る...技術であり、日本人の持つ特長といえる。当社の創出したAVN製品はすり合わせ技術の粋であり、当社の成長の牽引役となった。しかし、標準化技術やシリコンオーディオの時代を迎え、LSIの組み合わせで製品ができるようになると、今まで以上にすり合わせ技術をどう織り込むかが重要課題となってきた。

それではすり合わせの着眼点は何か？一つは、自動車の持つ“騒音、狭い空間、温度、振動、ノイズ”といった独特の難しい環境制約である。先頃、車内の限られた空間の中で広い空間の音の響きを再生する“次世代音響空間コントロールシステム”を開発、自動車メーカーで採用していただいた技術もいわばこのすり合わせに着眼したものである。もう一つは、自動車市場のグローバル化である。各国の文化や国民性に着眼したすり合わせである。当社の事業をグローバル化させるにはこの着眼点が欠かせない。

当社は、健全な自動車社会の発展に貢献するため、標準化技術の発展に寄与し、すり合わせ技術に挑戦して参ります。特に中長期の視点に立つとき、技術のトレンドに適応することはとても大切です。躊躇なく、自ら標準化技術の開発に寄与し、当社の特長であるすり合わせ技術を巧みに発揮して、世界初の技術製品を世に問うて参ります。

記載した製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。